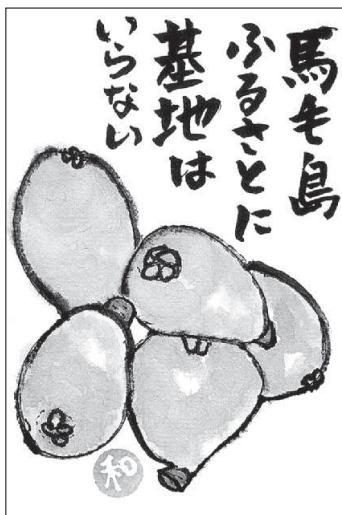


目白押し

沖繩・那覇市 上原幸代

沖繩では戦後80年にちなんで、映画や報道が目白押しです。先日、娘と平和な沖縄を実現するためにた

かった2人の県知事を描いた『太陽(ティタ)の運命』を見てきました。これから『戦雲(いくさ)ふむ』、『木の上の軍隊』『宝島』などが次々上映されるので、楽しみにしています。戦争につながる一切を



鹿児島・始良市 黒江和枝

テーマ

梅雨入りがチャンス

山口・宇部市 米本久子(78)

いよいよ梅雨入り、うっとうしい季節ですが、私にとっては楽しみな日々です。天気や気温を毎日15〜30分。今日は「の棚、今日は引き出し2〜3段と、中の物を全部出してきれいに拭き、敷物を替

えて整理しながら取めま。そろそろ補充するもの、買い過ぎてダブっているもの、長年使っていない物は処分したり、他の用途を工夫したり。時には流し回りをピカピカに磨いたり、賞味期限を

おてんき てんきII

(2016)



杏が色づいて

群馬・高崎市 鈴木泰子

杏が日に日に色づいています。生食がおいしいので、楽しみにしています。まだ硬いうちから落ちるのもあり、もったいないので、まず干し杏にしてみました。色づいてきたら煮て、ヨーグルトと一緒に食べています。米農家です

新潟市 笠原順子

わが家は米作農家で

部屋のかたづけ、私は...

確認しながら冷凍室の整理をしたり、不要な布を油拭き用に切ったり。梅雨が明けるところには、スッキリ、ピカピカ、



ものの居場所を

和歌山・田辺市 江藤弥生(70)

私は、ものには居場所が必要と思っています。古くから同居の「もの」も、新しい「もの」も、

きちんと居場所を確保して、必ずその定位置に置くことにしています。小さな家なので、定位置

す。米がこれだけ国民から関心をもちたことがあったでしょうか。作り過ぎだと減反政策が導入され、「猫の目農政」(ころころ変わる)こと

の。生産者は不満がいっぱい。

政府備蓄米をゲットしました。販売情報を得て、娘が買ってきてくれたのです。人が殺到して駐車場もいっぱい止められないだろうと。「場合に

備蓄米を

岐阜市 柳原敏子

よつては断念して帰って

くるからね」と言っていました。でも、開店時間

も前倒しだったらしく、「20分待つだけで買えたよ」とのこと。

主食である米の高騰は、本当に家計直撃で困っています。今回、安

価に得られてホッとした。先々が不安です。

政府には、長期的な抜本的対策を切に願います。

82歳になる独居老婆です。お医者さんに行ったり、買い物などの唯一の交通手段がバスです。公共の足を守る政策と

ボケ酒のススメ

東京・小平市 宮奈多摩江

ボケの花や実が大好き

川柳

・誕生日ロウソク多くて消せないよ 京都・向日市 よつこ
・物価高自作の野菜で食いつなぐ 岐阜・羽島市 川澄みきさ

き。庭や菜園などにボケの木がたくさんあり、実がたくさんなっている。秋にこのボケの実をアルコール度20の麦焼酎に漬け、オリゴ糖を少し入れてボケ酒を作る。とてもおいしいボケ酒ができて

山梨・甲府市 帯野賢代

財政支援を！ 日中のバスの便を増やしてください。老婆の足を守ってください。

国民が納めた税金をバラまくのには... 京都市 中村都子

選挙目当てに現金を給

母の日のなんだか海が見たくなり

長野県 吉井 未知

「評」胎児だった時の母親の胎内は、よく海にたとえられる。「母の日」に海が見たくなったのも、胎内への回帰願望であらうか。

スーパーの今日の目玉や長き茄子

兵庫県 上野 景子

すかんぼを折る音ボンと野に放つ

東京都 菊池 敦子

「鏡よかがみ...」答へないでね梅雨暑し

新潟県 今井 慶子

麗かや待合室は皆眠し

長野県 大山 京

命日の仏花に庭の黄水仙

北海道 吉田 智子

「作品募集」ハガキなどで編集部「あなたも俳句」係まで。作品は未発表のものに限ります。

読者文芸

あなたも俳句

田中千恵子 選

風吹くな田植え日和と安曇野は

長野県 太田 幸代

「評」真っ青に晴れあがった安曇野。今日は素晴らしい「田植え日和」。苗を指で差して植える。植え終わると田水をいっぺい張るが、どろどろ、風だけ吹かないでほしい、の願い。

夏帽子手に黙禱の一分間

京都府 花守 綾

「評」終戦日の8月15日が来るまで、日本各地はアメリカの空爆にさらされていた。手を合わせる墓や碑は、ここにもそこにも無数にある。

廃校のカフェのにぎわい(山笑)

東京都 伊東 千里

「評」山間の小学校だろうか、子どもたちが少なくなつて廃校だ。その校舎が「カフェ」に生まれかわって人々が集う。「山笑」がピタリと景。

バス停で一枚羽織る花疲れ

北海道 橋本喜久子

「評」作者は北海道のひと。花は俳句では桜をさす。北上した桜が最後のはなやかさを見せる北の地。少し疲れた充実の笑顔が見えるよ、よである。